

1 参加にあたって

各チームの責任者は、以下のガイドラインを熟読の上、参加をすること。

- ・ JBA バスケットボール活動再開に向けたガイドライン

※ JBA HPのトップページにある「【重要】新型コロナウイルス感染症に関するバスケットボール活動再開ガイドライン策定のお知らせ(6/22:Q&A追記)」よりダウンロードすることができる。

- ・ JBA ガイドラインの運用について/U15 カテゴリー

※ 埼玉県バスケットボール協会(以下、SBA)HPのトップページにある「JBA ガイドラインの運用について/U15 カテゴリー」よりダウンロードすることができる。

また、使用する会場の使用上の注意、選手が所属する市町村や学校の状況を把握する。

2 リーグ戦の運営について

(1) 入場について

- ・ 専門部、審判委員など役員および補助員、参加チームスタッフ、選手とする。

⇒ 入場するすべての者に「チェックシート(参加チーム用)」の作成を義務づける。

データはJBA HPの「【重要】新型コロナウイルス感染症に関するバスケットボール活動再開ガイドライン策定のお知らせ(6/22:Q&A追記)」よりダウンロードできる。

⇒ 「チェックシート(参加チーム用)」のチェック項目にすべてチェックがつかない場合は入場ができない。

- ・ 入場できるのは、1チーム最大19名。これは、ベンチに入る人(監督・コーチ・アシスタントコーチ・マネージャー・選手15名まで)を指す。監督・コーチ・アシスタントコーチは成人とし、マネージャーは中学生以上とする。

- ・ 観戦者(保護者、ベンチ外メンバー等)の入場は認めない。JBAが出している「競技会運営」のチェックシート項目である「(4) 来場者を場内に入れる場合は、サーモグラフィー、体温計による体温チェックを検討する。体温チェック実施困難の場合は、ゲートに人員を配置し、体調の悪い人は観戦をご遠慮いただくアナウンスをし続ける。」等の対応ができないこと、県協会側からスタッフを派遣することができないことが理由となる。

(2) 会場の利用について

- ・ 会場の利用については、それぞれの会場毎に使用上の注意があるので、事前に必ず確認しておくこと。(人数制限、消毒箇所、使用の制限等)
- ・ 学校会場において保護者が送迎をする際、敷地内では乗降のみとし、駐車は認めない。
- ・ 公共の体育館においては、その会場のルールに従うこと。
- ・ 試合前後のミーティングは、換気の良い場所で密を避け、短時間で行うこと。
- ・ 会場では、原則マスクを着用し、感染防止に努める。

(3) 会場の準備について

- ・ チームベンチは、直線上に配置せず、稲妻形（ジグザグ）に配置する。
- ・ 手指用消毒液、石けん、ペーパータオル、ゴミ袋を設置する。
- ・ 会場提供者がドリンクやお菓子等の準備はしない。
- ・ 使用する施設の換気を行う（常時）。換気扇、扇風機等があれば活用する。

(4) 到着後の受付について

- ・ チーム責任者は、受付までに自チームで体育館に入場する全員の健康状態を確認し、「施設来場者健康状態記録表」を作成する。
⇒ 「施設来場者健康状態記録表」は SBA HP のトップページにある「JBA ガイドラインの運用について／U15 カテゴリー」よりダウンロードすることができる。
- ・ 会場に到着後、受付をすること。受付は、チーム責任者等の成人が行うこと。
- ・ 受付では、「施設来場者健康状態記録表」を提出すること。

(5) 試合の進行について

- ・ 試合ごとに人の入れ替えを行う。試合の時間は、試合をしているチーム関係者および審判等の役員のみ会場にいる状態にする。試合間でベンチの消毒を行う。
- ・ 次の試合のチームが、ハーフタイムにコートを使用したアップをすることはできない。試合前に、体育館外等でストレッチ等のアップを行うことはかまわない。（雨天時も同様とする）試合前のフロアアップのために、試合をするチームが入場後から 30 分間の時間をとること。アップの際は大きな声を出さないこと。
- ・ スコアシートは、試合開始 10 分前までに記入をすること。
- ・ 試合は以下の項目に留意し、進行をする。

ア 不必要な接触を避ける

例) 試合前の握手、ベンチでのハイタッチ、円陣、倒れた選手に手を貸す

イ チームの共有物は使用しない

例) ボトル、ジャグ、ベンチタオル

ウ ベンチではマスクを着用し、必要のない会話は避ける。選手およびコーチ、マネージャーは座る場所をあらかじめ決定し、自分の場所以外に座らない。

エ ベンチでの応援は拍手のみとする。

オ コーチはマスクを着用し、大きな声での指示等を出さない。

カ ピリオド間のベンチでは広く間隔をとり、密を避ける。必要であれば、コートに侵入しても構わない。

- ・ 試合後は、自チームが使用したベンチを消毒する。ただし、成人が行うこと。
- ・ TO メンバー以外は、試合終了後すぐに帰宅すること。誰が行うのかをチームで事前に話し合っ
て決定しておくこと。
- ・ 試合終了後は、手洗い、消毒を必ず実施すること。

(6) 会場の片付けについて

- ・ 使用した機材や施設の消毒を行う。消毒は人が触れるところを消毒する。(ドアノブ、トイレのスイッチ、水道の蛇口、窓の鍵等)
例) TO セット、タイマー等の機材、椅子、机、更衣室、トイレ
- ・ 片付けについては、なるべく少人数で行う。

(7) 緊急時の対応

- ・ 発熱等の症状がでた場合に待機するための空間を確保しておくこと。選手の場合は、保護者に連絡を取り、帰宅させる。あらかじめ、保護者にも迎えにきてもらう場合があることを周知しておくこと。同時に、連絡できるよう準備をしておくこと。
- ・ 熱中症対策のために、場合によってはマスクをとることは構わない。特にアップ等では十分に注意すること。
- ・ 万が一、参加した者の中から新型コロナウイルス感染者が出た場合は、チームが所属する地域の保健所に早急に届け出ること。その後は、保健所の指示に従うこと。また、感染者の所属するチームの代表者は、リーグ全参加チームの責任者および U15 リーグ戦事務局 (u15inq@yahoo.co.jp) まで連絡をすること。
- ・ チーム責任者は、自チームの選手及び関係者の「チェックシート (参加チーム用)」を管理すること。感染者が出たなど、場合によっては、提出を求めることがある。
- ・ 運営責任者は、受付で提出された「施設来場者健康状態記録表」を保存すること。保存期間は、全行程終了後、半年とする。保存期間終了後は、個人情報保護に十分注意し、破棄して構わない。

(8) 1日のタイムスケジュール例

第1試合到着	8:00
第1試合 TO 到着	8:20
第1試合開始	9:00
第2試合到着	9:30
フロアアップ	10:30
第2試合	11:00
第3試合到着	11:30
フロアアップ	12:30
第3試合	13:00
第4試合到着	13:30
フロアアップ	14:30
第4試合	15:00

*早まった場合定刻、遅れた場合10分間の換気後、30分のアップの時間をとる。

(9) その他の注意

- ・ 試合当日、選手やスタッフは「チェックシート（参加チーム用）」を持参し、責任者に提出をすること。
- ・ チームで「施設来場者健康状態記録表」をあらかじめ準備しておくこと。この資料を受付にて提出する。
- ・ チェックシート（参加チーム用）の作成のために、試合当日より2週間前から検温を行わなければならない。

(10) リーグが途中中断となった場合の順位決定の方法

県2部とそれ以外で場合を分けました。これはU15リーグ戦が2020U15選手権埼玉県予選(WinterMadness)の出場に関わっていることが理由となります。県1部は参加全チームが2020U15選手権埼玉県予選(WinterMadness)に出場する権利があるが、県2部は上位チームのみしか参加できず、順位を決定しなければいけないという差異がある。

そもそも前提として、リーグ戦の全行程を終えて、確かな順位が決定される。そのため、リーグ戦が最終節まで行えなかった場合に順位をつけることが適当ではないと判断する。リーグが進めば場合によっては、序列をつけることは可能だが、事前にすべての場合を列挙することは難しいと考える。そのため、前提としてリーグ戦が最終節まで行えなかった場合は、順位決定はしない。

ただし、県2部については、2020U15選手権埼玉県予選(WinterMadness)の出場の問題があるので、以下のように対応をします。

① 出場全チームが第5節以上第9節以下まで試合を行った場合

参加チームのチーム代表者による投票を行い、U15カテゴリー一部会事務局の指導の下、2020U15選手権埼玉県予選(WinterMadness)に出場するチームを選定する。投票については、全チームにリーグ内の参加チームのうち、第1位～第5位相当の力をもっているチームを選ぶ。その結果をU15カテゴリー一部会事務局でとりまとめ実際の試合結果を考慮し、決定をする。

② 出場チームのうち、1チームでも第4節以下で試合が終わってしまった場合

U15カテゴリー一部会事務局による責任抽選で選定する。

補足として、リーグの中で、2020U15選手権埼玉県予選(WinterMadness)に出場する最も適切なチームを選ばなければならない。半数以上の試合を行えば、チーム代表者も全チームの試合を見ることができ、判断する材料があると考えられるため、第5節以上の場合は、チーム責任者の判断も、チーム選定の要素とした。一方で、試合数が少ない場合は、事務局側もチーム側も客観的に判断する材料が少なく、実際の試合を選定の要素とするのは難しいと判断し、責任抽選とした。

また、賞状はあらかじめリーグに配られるが、全行程を終えることができなかった場合に、無理に授与する必要はない。ただし、リーグ内チームの話し合いにより相応しいチームを選ぶことができる場合には、賞状を活用しても問題はない。